

## キャプタン

諮問理由	化学構造	作用機序	用途	評価資料
<ul style="list-style-type: none"> <li>・適用拡大</li> <li>・暫定</li> <li>・飼料</li> </ul>	フタルイミド環を有する	解糖系や TCA 回路に含まれている酵素の分子内に存在する SH 基、NH <sub>2</sub> 基を不活化する	殺菌剤	農薬抄録 海外評価書 (JMPR、 米国及び EU)

### 【試験成績の概要】

1. ラットを用いた動物体内運命試験において、吸収率は、少なくとも 81%であった。投与後 72 時間の尿及び糞中排泄率は 90%TRR 以上であり、主に尿中に排泄された。
2. 畜産動物（ニワトリ）を用いた動物体内運命試験の結果、代謝物 B 並びに C 及び D の混合物（分離できず）が、最大で 68.9%TRR 及び 26.0%TRR 認められた。
3. 植物体内運命試験の結果、主要残留物はいずれも未変化のキャプタンであった。10%TRR を超えて検出された代謝物は B であった。
4. 毒性試験においてキャプタン投与による影響は体重増加抑制及び小腸の十二指腸粘膜過形成（マウス）であった。繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体にとって問題となる遺伝毒性は認められなかった。
5. 発がん性試験において、マウスでは十二指腸に腺腫及び腺癌が認められたが、遺伝毒性試験、メカニズム試験の結果等から、腫瘍の発生メカニズムは遺伝毒性によるものとは考えられなかった。

【評価を受ける部会】：評価第三部会

## テプラロキシジム

諮問理由	化学構造	作用機序	用途	評価資料
・ 暫定基準	シクロヘキサ ンジオン骨格	脂肪酸生合成に関 与するアセチル CoA カルボキシラ ーゼを阻害	除草剤	・ 農薬抄録 ・ 米国 EPA ・ 豪州 APVM

### 【試験成績の概要】

1. 動物体内運命試験の結果、経口投与されたテプラロキシジムの投与 120 時間後の吸収率は約 100%であり、尿及び糞中に 90.8~99.9%**TAR** が排泄された。主に尿中に排泄された。尿、胆汁及び血漿中の主要代謝物は、代謝物[2]、[20]、[21]、[22]及び[28]であった。
2. 植物体内運命試験の結果、10%**TRR** を超える代謝物は [13]、[14]及び[16]であった。
3. 作物残留試験の結果、テプラロキシジム及び代謝物[13]の最大残留値はそれぞれ大豆の 0.08mg/kg 及び 0.44mg/kg であった。
4. 各種毒性試験結果から、テプラロキシジム投与による影響は、主に体重（増加抑制）、肝臓（小葉中心性肝細胞腫大等）、脾臓（ヘモジデリン沈着等）、甲状腺（重量増加等）及び腎臓（近位尿細管上皮硝子滴変性等）に認められた。
5. 繁殖能に対する影響は認められなかった。
6. 発がん性試験において、ラット及びマウスの雌で、肝細胞腺腫及び肝細胞癌の発生頻度増加が認められたが、腫瘍の発生機序は遺伝毒性によるものとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。
6. ラットを用いた発生毒性試験において、母動物に毒性影響がみられる用量で痕跡尾等が認められた。ウサギでは発生毒性は認められなかった。

【評価担当部会（予定）】：評価第一部会